

令和6年3月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和6年3月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

サッカーJ3参入6季目で、昨季7位だったヴァンラーレ八戸は、2月24日に大宮アルディージャと敵地で今季開幕戦を迎えました。

試合には敗れたものの、FWオリオラ・サンデー選手が持ち前のフィジカルとスピードを生かして今季チーム初ゴールをマーク。オリオラ・サンデー選手は昨季途中に加入し、終盤戦の躍進に貢献した頼れる助っ人です。試合後、ゴールを決めたことに喜びつつも、「自分はまだもっとできる」と次節以降のさらなる活躍を誓いました。

ヴァンラーレ八戸の今季のチームスローガンは「超えて行け、その壁を。」。J2昇格へ向け闘うチームを「全緑」で応援しましょう。

◆ヴァンラーレ八戸の詳細はこちらをご覧ください（チームホームページ）

<https://vanraure.net/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 3月号 レポート

令和6年2月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	題名
(1)	青森県内に企業進出を 県、都内で産業立地フェア
(2)	八戸ふるさと交流フォーラム 開催
(3)	「はちとまネットワーク」締結5年 物流、観光連携深化へ
(4)	水産アカデミー 八戸の海面養殖 可能性や課題は
(5)	八戸市24年度予算案 子ども医療費完全無償化など
(6)	八戸市体育館建て替え 31年供用開始目指す
(7)	伊調さんのブロンズ像設置へ 来年度内、八戸・長根公園の園路
(8)	八戸市第3魚市場A棟改修へ

【産業】

記事	題名
(9)	しんぼり（八戸）八食に新店舗 創作南部せんべい多彩
(10)	八戸ワイン 首都圏でPR
(11)	SEMITEC（東京）八戸に拠点 高精度温度センサー開発
(12)	宝成食品（八戸）開発 カニの甲羅 コーンで再現

【地域】

記事	題名
(13)	みちのく潮風トレイル 外国人客拡大へ情報発信
(14)	八戸北高生、市美術館の魅力発信へ奮闘
(15)	えんぶりファン増やそう！ 八戸で見学、体験ツアー
(16)	八戸・八食鍋フェス

【文化・スポーツ】

記事	題名
(17)	YSアリーナ八戸初の国際大会開催 世界レベルの滑り 観客興奮
(18)	パラリンピック ゴールボール 天摩選手（八戸出身）「目標は金メダル」
(19)	八戸えんぶり閉幕

【行政】

記事	概要
(1)	<p>青森県内に企業進出を 県、都内で産業立地フェア</p> <p>青森県と県企業誘致推進協議会は2月2日、首都圏企業を対象にした「あおり産業立地フェア」を東京都内で開催した。宮下知事や県内5市の市長らも参加。宮下知事は、県内の工業団地や県の支援制度、人材確保に向けたサポート体制などを説明。熊谷市長は降雪量の少なさや物流の拠点性、2024年度中に分譲受け付けを開始する八戸北インター第2工業団地などをPRした。参加した各自治体は、取組や優位性をアピールしながら約200人の参加者に県内への進出を呼び掛けた。</p>
(2)	<p>八戸ふるさと交流フォーラム 開催</p> <p>八戸市ゆかりの首都圏在住者が集う「八戸ふるさと交流フォーラム」が2月13日、東京都内で開かれた。「アートのまちづくりと市美術館」をテーマにパネルディスカッションを行い、芸術を生かしたまちの活性化の方策などを探った。討論では、熊谷市長や市美術館の佐藤慎也館長、青森県立美術館の設計を手がけた建築家で京都市美術館長の青木淳氏らがパネリストを務めた。同日は熊谷市長による市政報告が行われたほか、交流会も開かれ、参加者らが親睦を深めた。</p>
(3)	<p>「はちとまネットワーク」締結5年 物流、観光連携深化へ</p> <p>八戸市と苫小牧市が2018年度に地域活性化や交流人口の拡大を目指し締結した、交流連携協定「はちとまネットワーク」は、本年度で5周年となった。両市は、連携推進、観光、スポーツ、物流・貿易、文化の5分野で官民による連携事業を続けてきた。連携の効果が最も期待されるのは貿易分野で、協定締結当初から、東南アジアとつながるコンテナ定期航路の誘致に取り組んでいる。新型コロナウイルスの影響が落ち着く中、各種事業の本格化が期待され、一層の連携の深化が求められる。</p>
(4)	<p>水産アカデミー 八戸の海面養殖 可能性や課題は</p> <p>八戸市は2月19日、水産業の再興を目指す「八戸水産アカデミー」の年度内最後の講演会を開催した。「『理想』も『現実』も語る海面養殖座談会」と題し、水産、観光、行政の各分野に精通したパネリスト5人が海面養殖事業化の可能性や実現に向けた課題などを語った。「養殖に不向き」との見方が根強い八戸周辺の海域は、波浪が強く、いけすや魚体が傷つく可能性がある、八戸港内は市内2河川の泥水の影響を受ける、などさまざまな事業化への課題を共有した。養殖魚の出口戦略としては、地元で消費できないとブランディングが難しいとし、地元人気を高めることが後の観光客誘致につながるなどの提言があった。</p>
(5)	<p>八戸市24年度予算案 子ども医療費完全無償化など</p> <p>八戸市は2月21日、2024年度一般会計当初予算案を発表した。総額は前年度当初比11億円（1.2%）増の961億円。コロナ禍後の社会情勢の変化に対応しながら、市政運営上の重要課題を克服し、当市の未来を創り上げていくため「未来共創推進戦略2024」に掲げる9つの戦略に基づき、戦略的に取組を展開する。特に、市独自の物価高騰対策、相次ぐ大規模災害を踏まえた防災力の強化のほか、子ども医療費の完全無償化などの子どもファースト関連事業、公共施設の長寿命化対策の推進等について重点的に予算配分が行われている。</p>

(6)	<p>八戸市体育館建て替え 31年供用開始目指す</p> <p>八戸市の長根公園内にある市体育館の建て替え計画で、市は2月20日、新体育館本体の建設費が概算で135億9千万円となることを明らかにした。財源の2分の1に国の社会整備資本整備総合交付金を充て、民間資金を活用するPFI方式での整備を想定。新体育館は3階建てで、延床面積約1万8400平方メートル。1階に子供用プールを併設した25メートル公認プール、柔道場、剣道場、トレーニングルームを配し、2階にはバスケットボールコート3面分のメインアリーナと1面分のサブアリーナなどを設ける。3階の観客席はメイン1500席、サブ500席程度となる予定。2031年の供用開始を目指す。</p>
(7)	<p>伊調さんのブロンズ像設置へ 来年度内、八戸・長根公園の園路</p> <p>八戸市は2月21日、レスリング女子で五輪4連覇を達成した伊調馨さん（八戸市出身）をたたえるため、長根公園内に整備する園路「伊調ロード」に伊調さんのブロンズ像が設置されると明らかにした。ブロンズ像は、市民有志でつくる実行委員会が制作を計画し、完成後は市に寄付する。園路は、屋内スケート場付近から武道館までの延長94.5メートルで、かつて伊調さんらがレスリング場で練習するために通った道を整備。園路沿いには伊調さんと姉の千春さん、小原日登美さんの地元五輪メダリスト3人の功績を紹介する顕彰プレートを設置する。ブロンズ像と園路は2024年度内に整備が完了する見通し。</p>
(8)	<p>八戸市第3魚市場A棟改修へ</p> <p>八戸市第3魚市場荷さばき施設A棟について、市は来年度にも改修工事に着手し、水揚げ設備を撤去する方針を正式に表明した。市は2度の改善計画に取り組んだが水揚げ数量が増えず目標を大幅に下回っていることや、サバの不漁が続いていることなどが理由。A棟はサバに特化した高い衛生管理基準EU・HACCP（ハサップ）対応の荷さばき施設として2012年に完成。水産都市・八戸を支えるサバの付加価値を目指したが、当初から課題となっていた稼働率の低迷が好転しなかった。今後は、業界関係者の意見を踏まえ、荷さばき施設として有効活用していきたい考え。</p>

【産業】

記事	概要
(9)	<p>しんぼり（八戸）八食に新店舗 創作南部せんべい多彩</p> <p>南部せんべいとチョコレートを組み合わせて開発した人気商品「チョコQ助」を手がける八戸市のお菓子製造販売「しんぼり」は、2月8日、八食センターに創作南部せんべいの販売店「BEILAB（ベイラボ）」をオープンした。南部せんべいのおいしさを知ってもらい、業界を盛り上げようとの思いで独自性ある店舗づくりを心がけた。新店舗でしか購入できない商品や、地元食材にこだわった「せんべいバーガー」といったカフェメニューも充実させる。</p>
(10)	<p>八戸ワイン 首都圏でPR</p> <p>八戸市とはちのヘワイナリーは2月16日、東京・内幸町の八戸都市圏交流プラザ「8 base（エイトベース）」で八戸ワインの試飲販売会を開いた。赤や白、ロゼの6商品を用意し、首都圏の消費者に魅力をPRした。店の前を通りかかった買い物客らは、興味深そうにテイastingしたり、ワインを買い求めたりしていた。「八戸は日本酒のイメージがあったが、ワインもおいしい」などと好評だった。今回提供された八戸ワインの一部は8baseでも取り扱っている。</p>

(11)	<p>SEMITEC（東京）八戸に拠点 高精度温度センサー開発</p> <p>高い精度の温度センサーを中心に電子部品を開発・製造する「SEMITEC」（東京）が4月1日に八戸インテリジェントプラザ内に開発拠点「（仮称）八戸テクノロジーセンター」を開設する。同社の生産拠点は千葉市やアジアに計8拠点。開発拠点は国内と中国、韓国に5カ所あり、八戸は6カ所目となる。同社は2019年から八戸高専、弘前大と共同で皮膚がんを診断するセンサーの開発に取り組んできた経緯があり、今後も八戸高専をはじめとした人材や技術力を生かしたいと、八戸での拠点開設を決めた。地元の研究開発人材の受け皿の役割も担う考え。</p>
(12)	<p>宝成食品（八戸）開発 カニの甲羅 コーンで再現</p> <p>八戸市の水産加工業「宝成食品」が「器ごと食べるSDGs なかにグラタン」を開発した。食べ終わった後、ほとんどが廃棄処分となる器用のカニの甲羅に着目。アイスクリームのコーンからヒントを得て、食べられる器を開発した。器には伊勢エビペーストを練り込み、甲殻類のうま味やカニの色味を再現。焼き型は3Dプリンターで作成し、仕上がりは本物そっくり。これまで甲羅の多くは韓国からの輸入品で、不漁や円安で供給量が不安定だったが、廃棄物を削減するとともに、漁模様に左右されない安定した供給を実現した。</p>

【地域】

記事	概要
(13)	<p>みちのく潮風トレイル 外国人客拡大へ情報発信</p> <p>八戸市と福島県相馬市を結ぶ「みちのく潮風トレイル（MCT）」を外国人旅行者拡大の柱にしようと、MCTの管理・運営団体「みちのくトレイルクラブ」（宮城県）が、東北地方を訪れる外国人客の増加に向けて情報発信に力を入れている。同団体は、昨年12月に米ニューヨークなどを訪れてMCTの情報を発信。欧米のハイカーからは、美しい風景を楽しみつつ震災の教訓も得られるMCTを高く評価する声が出ており、ハイカー用に販売している全10冊の地図も海外からの購入が増えているという。登録されたMCT全線踏破した外国人ハイカーは2023年末時点で10人だったが今後拡大するだろうと期待を込める。</p>
(14)	<p>八戸北高生、市美術館の魅力発信へ奮闘</p> <p>青森県立八戸北高2年の佐々木美保さんと森田珠羽さんは、2月24日、交流を生み出す場について考えるワークショップ「Meetium（ミーティウム）」を八戸市美術館で主催した。Meetiumとは「Meet（人に会う）」と「museum（美術館）」を掛け合わせた造語。誰もが自由に過ごせる大空間「ジャイアントルーム」を擁し、作品展示にとどまらない幅広い活動を通じた、人同士のつながりや学びへの発展に重きを置く同館の魅力や可能性を知ってもらおうとイベントを発案。当日は、「八戸美術館」をテーマに、現状のイメージや活用のアイデアについて参加者と語り合った。イベントは今後も継続して開催される予定で、二人の奮闘は始まったばかりだ。</p>

<p>(15)</p>	<p>えんぶりファン増やそう！ 八戸で見学、体験ツアー</p> <p>VISITはちのへなどは2月10日、17日からの「八戸えんぶり」の開催を前に、えんぶりの見学や体験ができるツアーを八戸市内で開催した。東北六県で誘客促進を目指す仙台市の「東北の人と文化を基軸としたローカルツーリズム推進事業」の一環で、えんぶりの認知度を高めてファンを増やすのが狙い。参加者は、練習場所のえんぶり宿などを巡り、勇壮な摺りや子どもたちの舞を見学し魅力を体感した。また、八戸酒類も訪問し、酒造りの工程などを学び、試飲も体験した。</p>
<p>(16)</p>	<p>八戸・八食鍋フェス</p> <p>八戸市の八食センターで2月17、18日に、多彩な鍋料理を味わえるイベント「八食鍋フェス2024」が開催された。昨年が続いて2度目の開催で、地元の特産品を使った鍋料理にスポットを当て、地域の食文化を活性化させるのが狙い。初日は、青森、岩手両県の飲食店・団体がブースを構え、八戸せんべい汁やタラのじゃっぱ汁、創作鍋などを提供した。野外特設会場では、八戸えんぶりに参加する組の実演会も行われ、多くの来場者は温かい鍋とえんぶりの魅力を堪能した。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
<p>(17)</p>	<p>YSアリーナ八戸初の国際大会開催 世界レベルの滑り 観客興奮</p> <p>YSアリーナ八戸では、2月3、4日に初の国際大会となるジュニアワールドカップ最終戦が開催され、同9～11日に世界ジュニア選手権が行われた。2019年に開館して以来、「氷都八戸」を象徴する屋内リンクがようやく世界水準の機能を本格的に発揮した。二つの大会を合わせると、参加国数は21カ国に上り、観戦に訪れた市民は各国のジュニア年代トップクラスの選手のハイレベルなレースに熱視線を送った。ジュニアワールドカップ最終戦の初日には、選手団に名物の八戸せんべい汁を提供するなど、随所に「氷都八戸」らしいおもてなしがされた。</p>
<p>(18)</p>	<p>パラリンピック ゴールボール 天摩選手（八戸出身）「目標は金メダル」</p> <p>8月に開幕するパリパラリンピックにゴールボール女子日本代表として出場が期待される、2021年の東京大会主将で銅メダリストの天摩由貴選手（八戸出身）が、2月6日、パラリンピック出場への抱負を語った。日本は昨年11月のアジア・パシフィック選手権でパリへの切符を手に入れている。前回大会では代表入りしながら負傷で出場できず悔しさが残っているという天摩選手は、2022年にはスキルアップのため、所属チームを変更して代表入りを目指している。「パリではコンディションをしっかり整え、一番いい状態で大会に望んでチームの勝利に貢献したい」と“金メダル”獲得の実現へ闘志を燃やす。</p>
<p>(19)</p>	<p>八戸えんぶり閉幕</p> <p>国指定重要無形民俗文化財の「八戸えんぶり」は2月20日、4日間の全日程を終えた。初日は八戸市内で積雪がある中での開幕となったものの、例年を大幅に上回る気温の日もあり、一気に春の訪れを感じさせる期間中だった。最終日も青天の下、各えんぶり組が市内各地で名残の摺りや祝福芸を演じて回り、市民や観光客が惜しめない喝采を送った。期間中（17～20日）の入り込み数は、延べ36万人2千人に上り、前回2023年の29万人6千人を上回るにぎわいを見せた。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

1 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

2 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

3 お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。